




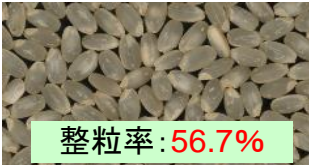


# 令和7年度にデビューする高温耐性を有する水稲オリジナル品種

## 【品種候補の特性】

91号	92号	キヌヒカリ (対照)
		
		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温耐性：やや強～強</li> <li>・葉いもち耐性：中</li> <li>・穂発芽性：やや難</li> <li>・芒の有無：有</li> <li>・キヌヒカリより多収</li> <li>・キヌヒカリより良食味</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温耐性：強</li> <li>・葉いもち耐性：強</li> <li>・穂発芽性：中</li> <li>・芒の有無：有</li> <li>・収量はキヌヒカリ並</li> <li>・キヌヒカリより良食味</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温耐性：やや弱</li> <li>・葉いもち耐性：中</li> <li>・穂発芽性：やや易</li> <li>・芒の有無：無</li> </ul>

品種候補はすべて整粒率が70%以上（※）であり、高温に強い特性を備えている。

（整粒率が70%以上が1等米、60%以上が2等米、45%以上が3等米に相当）

令和5年度は高温であったため、1等米の比率が例年以上に低かったことが全国的に問題となっている。

（県産米の1等米比率（令和5年12月末現在）  
コシヒカリ...34.6%（過去22年間で最低）  
キヌヒカリ...23.4%）

※玄米写真は令和5年度栽培によるもの。出穂後20日間平均気温は29.0～29.2℃。

※特性の評価はR4,5の栽培結果により記載。

## 【今後の取り組み】

- 本年度（令和5年度）の現地実証ならびに食味試験等を通して、令和6年度に1系統まで絞り込み、令和7年度に農家が栽培を開始します。
- 県とJAグループに加え実需者（県米穀事業協同組合）が参画する普及推進協議会を設立し、販売戦略を検討、販売促進していきます。
- 兵庫県の米の生産量は県内消費量の約55%にあたることから、デビューする水稲オリジナル品種は、地産地消を進め県民向けに販売していく予定です。

## 【参考】

## 【育種の過程】

		実績							当年	予定		見通し						
経過 年数 (年度)		1年目 (H28)	2 (H29)	3 (H30)	4 (R1)	5 (R2)	6 (R3)	7 (R4)	8 (R5)	9 (R6)	10 (R7)	11 (R8)	12 (R9)	13 (R10)	14 (R11)	15 (R12)		
H28交配の世代数		F1/F2		F3/F4		F5		F6		F7		F8		F9		F10		
代替 の 対 照 品 種	キヌヒカリ (コシヒカリ)	交配	固定期間 (集団養成) 2作/年		選 抜 (選抜前の系統数(目安)) 10,000系統 → 500系統 →		選 抜 70系統 → 5系統 → 3系統 → 3系統		選抜(食味を含む)、生産力検定(ほ場試験)、 現地調査、種子増殖		出願							
		交配	固定期間		選 抜		選抜(食味を含む)、生産力検定(ほ場試験)、 現地調査、種子増殖		出願									
	ヒノヒカリ		交配	固定期間		選 抜		選抜(食味を含む)、生産力検定(ほ場試験)、 現地調査、種子増殖		出願								
			交配	固定期間		選 抜		選抜(食味を含む)、生産力検定(ほ場試験)、 現地調査、種子増殖		出願								
	コシヒカリ			交配	固定期間		選 抜		選抜(食味を含む)、生産力検定(ほ場試験)、 現地調査、種子増殖		出願							
					交配	固定期間		選 抜		選抜(食味を含む)、生産力検定(ほ場試験)、 現地調査、種子増殖		出願						

### 【背景・目的・成果】

- 平成28年度からコメの新たな需給調整や他府県におけるブランド米攻勢に対応し、競争力ある兵庫米づくりを推進するため、消費者・実需者の幅広いニーズをとらえた県独自のオリジナル主食用品種をJAグループ、生産者及び実需者と一体となって育成しています。
- その第1弾として令和7年度にデビューを目指し、キヌヒカリに代わる高温登熟性と食味に優れた品種候補を3系統まで絞り込みました。